

【所属名：能生事務所 有線テレビ係】

【会議名：令和5年度第2回放送番組審議会・有線テレビジョン放送施設運営委員会】

会 議 録

作成日 令和5年11月20日

日	令和5年11月17日(金)	時間	9:30~10:45	場所	能生生涯学習センター 2階 第1会議室
件名	議題1 報告事項 (公開) (1) 施設運営に関すること 上半期の障害発生状況、ONU更新計画、インボイス制度の対応 (2) 放送番組に関すること 番組作りボランティアについて 議題2 審議事項 (公開) ・放送番組審議「ぐるっとふるさと信越」、「信越トライワーク」				
出席者	【出席委員】 5名 放送番組審議会・有線テレビジョン放送施設運営委員会委員 猪又委員、川合委員、齋藤委員、真見委員、丸山委員 【事務局】 6名 総務部 渡辺部長 総務課 大平係長 能生事務所 高野事務所長、武藤係長、池亀主査、磯谷主査				
	傍聴者定員	一人	傍聴者数	一人	

会議要旨

<p>1 開会(9:30) 高野事務所長</p> <p>2 総務部長あいさつ 渡辺総務部長</p> <p>3 会長あいさつ 齋藤会長</p> <p>4 議事 報告事項 (1) 施設運営に関すること 【事務局】資料に基づき上半期の障害発生状況、ONU更新計画を説明 【出席者】意見等 特になし 【事務局】インボイス制度の対応について説明 【出席者】意見等 委員)インボイス制度開始によって、事務量は増えたか。 事務局)適格請求書を発行できるようシステムの改修を行ったもので、事務内容や事務量に大きな影響はない。使用料を口座振替いただいている企業様のうち、インボイスの項目を明記した通知書の請求があった場合、その都度対応している。</p>
--

(2) 放送番組に関すること

【事務局】資料に基づき「番組作りボランティア」について説明

【出席者】意見等

委員) ボランティアは、高校生でも登録可能か。

事務局) すでに登録いただいている方の中には高校生もおり、高校生も含めて募集を行っている。

委員) 駅伝大会では、ゴール地点等の運営に協力している高校生の姿も見かけた。

ケーブルテレビの生中継ボランティアも、知り合いの高校生に声をかけてみたい。

事務局) 最近、高校生が積極的にボランティア活動を行っており、能生事務所関連でも、海の資料館「越山丸」の塗装や権現荘の掃除・環境整備など「アオハルサポーター」のご協力をいただいている。

生中継スタッフボランティアも含めて、ご紹介いただきたい。

委員) 生中継スタッフとしてボランティア活動を体験した委員に、感想をお聞きしたい。

委員) スタジオ内で全体を見ながらの作業だったが、少ない人員の中でバタバタになりながら放送しているのを見て、今後も関わられる部分で応援していきたいと感じた。

委員) お疲れ様でした。

行事によって、必要な役割などが変わってくると思うが、まだ人員的には増えた方がいいのか。

事務局) 内容や日程によって、参加可能な人数が変動するので、継続して募集する。

委員) ボランティアは、1年ごとの登録か。

一度登録すると、毎回参加しなければならないということか。

事務局) ご協力をお願いする場面ができれば、その都度、参加の可否を相談させていただく。

ボランティア登録の際に、高校生以下の場合は保護者の同意をいただいたうえで、活動が可能な条件や、得意分野など作業内容のご希望を伺う。

それらを加味して、参加の可否を相談し調整している。まずは、登録をお願いしたい。

委員) 「能生ふるさと海上花火大会」は、ボランティアをお願いしたか。

事務局) 花火大会の生中継は、定点カメラ2台のみだったことから、ボランティアはお願いせず、職員で対応した。

委員) 市外から通学している高校生も、地域に溶け込み何かしらボランティアをしたいという生徒が多いように思う。こちらからアクションを起こせば、協力してもらえと思う。

事務局) 高校生は、「動画」や「配信」に関心が高く、機器の扱いも慣れていて、実際、駅伝の生中継に参加した高校生ボランティアは、即戦力となり心強く感じた。

5 審議事項

・放送番組「ぐるっとふるさと信越」について

【事務局】資料に基づき放送番組「ぐるっとふるさと信越～糸魚川版 親子ワークショップ～」について説明

【出席者】意見等

委員) 「親子ワークショップ」の内容が、すごく興味深くおもしろかった。

参加した保護者のインタビューで、ナマの声が聴けて良かった。放送枠が短かったのも、難しかったのかもしれないが、留学した児童と、受け入れ側の児童がどんなふう感じた

のかも聴けたらよかった。

今回は、商工観光課に協力してもらったということであり、次の議題の「信越トライワーク」も文化振興課に協力いただいたということであるが、これまでどんな形で他課と連携してきたのか。

もっと他課と連携した番組作りをしていってもらいたい。

例えば、私自身、「こども読書推進委員」として活動しているので、生涯学習課ともタイアップして、読書を推進する番組作りを提案したい。

他にも、こども課の「もっとアソビバ」事業PRに能生ケーブルネットの文字テロップを活用するなど、情報はあるのに活用しきれていない印象で、もっと他課との連携を深めて番組作りや情報発信をお願いしたい。

事務局)「親子ワーケーション」のインタビューは、保護者だけでなく児童のナマの声も入れるべきだったと反省している。

今後はより一層他課と連携して、糸魚川市が目指しているもの、市民の皆様のニーズに沿った番組作りに努めていきたい。

委員)私も「親子ワーケーション」は興味深く視聴した。

全国で「ワーケーション」が広がりを見せる中で、糸魚川市での取り組みを、この番組を通じて知ることができた。保護者が子どもに無理強いすることなく、留学を体験していることが伝わった。

留学した児童と、受け入れ側の児童の声を聴くことができれば、もっと広がりができたのではないか。

糸魚川市が取り組んでいる事業の紹介番組が、能生ケーブルネットで能生地域にしか放送されないことが非常に残念で仕方がない。これまでも、審議会で度々言われてきたことだが、せっかくの施設や番組を、もっと広めていけたらと改めて感じた。

この番組だけでなく、議会中継や駅伝の生中継など映像での発信は紙面とはまた違った臨場感や迫力、表情などが伝わり魅力的である。

事務局)今回制作した「ぐるっとふるさと信越」の内容については、商工観光課監修で、糸魚川市のホームページに掲載した。YouTubeの「糸魚川チャンネル」で、能生地域以外の方にもご覧いただける。

事務局)ホームページに掲載したものを、いかに大勢の方に視聴していただけるかが課題だと認識している。

委員)そこにたどり着くまでの、PRが大事である。

事務局)そういった点でも、他課との連携が大事であることを再認識した。

委員)同感である。せっかくいいものを作っても、それを視聴していただけるかどうか。

糸魚川市の豊かな自然を生かした「親子ワーケーション」に興味を持っていただくためには、まずは知っていただかなければならない。私たちも含めて、もっと視聴していただけるようにアピールしていかないと、非常にもったいないことだと思う。

「気軽に見られる」ことも大事であり、アピールの仕方を考えていかなければならないと強く思う。

委員)先日、糸魚川市が全国放送で紹介された際には、事前の番宣効果で大勢の方が視聴し、県外の知人からも反響があった。宣伝の効果が大きかったのではないか。

事務局) 行政だけでは限界がある部分も、個人のSNS発信でご協力いただくなど、その方向性も探っていきたい。

委員) そういった面でも横のつながり、情報交換が大事である。

・放送番組「信越トライワーク」について

【事務局】資料に基づき放送番組「信越トライワーク～相馬御風生誕140周年～」について説明

【出席者】意見等

委員) 相馬御風に関する番組で、非常に興味深く視聴した。

最近、他でも歴史や文化関連のテレビ番組が多い傾向に感じる。

スタッフ不足のため定点カメラでの撮影ということだが、この番組に関しては耳に入ってくる情報が多かったのも、定点カメラの方が、説明する方も聞く方も両方とも落ち着いていてかえってよかったように思う。

今回は2人だけでのやり取りだったが、市内には相馬御風について研究している方や詳しい方がいらっしゃるのも、ゲストをお願いしてもよかったのではないかな。

夏の暑い日に取材をした様子が、映像を見てすごく伝わったが、折角なら糸魚川市のロゴが入ったTシャツを着ると、よりインパクトがあったのではないかな。

これまでも、糸魚川市の魅力を数多く紹介してきたということだが、最近は登山ブームのようなので、山に登りながら糸魚川の山の紹介、或いは海の紹介をしてはどうか。

以前、上越市のレポーターと神道山の紹介をしてもらったが、その直後に上越市からの来訪者が一気に増えたことがあった。反響が大きい番組なので、今後も糸魚川市のPRに大いに活用して行ってほしい。

委員) 「相馬御風生家」にはこれまで2、3回訪れているが、内部をざっと見学しただけだったので、今回この番組でじっくり説明を聴きながら見学できた。

定点カメラでの撮影は、より集中できてよかった。

能生地域をはじめ、糸魚川市にはまだまだ魅力的なことがたくさんあり、特に長野県の人たちは「海」の情報に関心が高い。先ほどの「ぐるっとふるさと信越」のテーマでもあった「移住」と絡めると、知り合いの漁師さんの中にも移住してきた方が何人かいる。人口減少、少子高齢化、後継者不足対策としても、今後も交流人口拡大に向けた番組作りを期待する。

委員) 恥ずかしながら、紹介された史跡はまだ行ったことがないところばかりだったが、見ていて、機会があれば行きたいと感じる番組だった。

今回は、人物にスポットを当てていた印象だが、作品や資料の紹介がもう少し欲しかった。時間枠の制限があつてのことだと思うが、作品や資料のインサートなどがあつてもよかったのではないかな。

委員) 私も行つたことがない場所だった。それだけに、建物の周りがどんな雰囲気なのか、位置情報も含めて気になった。

次の部屋や場所への場面転換が、ワープした形での紹介だったが、部屋を結ぶ廊下など位置関係や立体的な情報が気になった。

番組の途中に、参加局の自治体の「ふるさとCM」が差し込まれているのが、おもしろかった。イベント告知もあり、番組としてのクオリティが高いと感じた。

エンディングの担当者の動作など、ローカル局のレトロ感も個人的には好感が持てた。

委員) 美山公園の石像の場所は、わかりづらいと思う。地図などで示すとわかりやすくなる。

委員) 担当者のインタビューが、説明者の知識や研究内容をうまく引き出し、話を広げていてわかりやすかった。私の地区の神社にも、相馬御風ゆかりの資料があり、機会があればまた、もっと掘り下げて「糸魚川が生んだ文人・相馬御風」を県内外に紹介していただきたい。先ほどから話題になっているが、新潟県人は奥ゆかしいのか、とかく「PRが下手」と言われている。ケーブルテレビも、糸魚川市のPRに一層頑張ってください。

委員) 取り扱う「糸魚川ネタ」は、毎回どのように選定しているのか。

事務局) 糸魚川の当番にあたる時季を考慮し、イベントやレジャー、観光施設、商品紹介など旬な話題を係内で話し合っ決めていく。

委員) 糸魚川市の紹介は、年間に何回くらい当番が回ってくるのか。

事務局) 年間3回程度。

委員) 選定の苦労はないか。

例えば、今年は生誕140周年の相馬御風はじめ「糸魚川市の文化」を、年間を通じて追いかける…など、文化、観光、歴史などの分野から、年間でテーマやスケジュールを決めると選定の負担が軽減できるのではないかと考えている。

事務局) 個人事業者の極端な営利目的にあたらぬ範囲で、糸魚川市のPRにつながる話題を選定している。まだまだ題材はたくさんあると考えている。

委員) 番組に対する反響はどうか。

事務局) 直接、能生ケーブルネットに対してはないが、視聴者の地元放送局に交通アクセスなどの問い合わせが入ることもある。

6 その他

【出席者】

委員) 1120hで放送しているライブカメラの撮影ポイントは固定されているのか。

事務局) ライブカメラの映像は、専用回線を伝って能生事務所へ送られてきている。カメラの移動には専用回線の工事が必要になるため難しい。

委員) 夏やゴールデンウィーク時、たびたび国道8号が渋滞する。特にマリンドリーム能生の入口は、頻繁に渋滞が見られる。ライブカメラで、渋滞状況を確認できないかと考える。現在の設置場所は、それぞれ目的があるのか。

事務局) それぞれに防災や農業、観光といった目的で選定したと聞いている。

事務局) 道路については、別の機関で設置しているカメラがあるのでご活用いただきたい。

【事務局】

事務局) 毎年放送している正月特別番組「長野・新潟・富山ケーブルテレビ局共同制作番組」『お国自慢 大新年会』について告知。

7 閉会 (10:45)